

2025 年 4 月 6 日(日)小平市長選挙に立候補予定の皆様へ

2025 年 2 月 11 日

わたしたちのまちのづくり方

共同代表：神尾 直志

〒187-0025 小平市津田町 1-18-32-403

TEL：080-5071-0255

e-mail：[kamihoo2011@gmail.com](mailto:kamihoo2011@gmail.com)

URL：<https://watashimachi.com/>

Facebook：<https://www.facebook.com/tadashi.kamio.1>

拝啓

少しずつ春の訪れを感じる頃となりました。皆様におかれましては、4月の小平市長選挙に向けて、大変お忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

わたしたちのまちのづくり方は、「多くの市民の賛同の得られるまちづくり」を目指す活動をしている市民グループです。私どもの会では、市長選挙において、市民が投票する際の参考にするため、添付のようなアンケートを作成致しました。

大変お忙しい中だとは思いますが、お読みいただき、締切日の2月28日までに、電子データで、回答フォーム（WORD）に記入の上、上記 e-mail アドレス、Facebook メッセンジャーで、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

不明な点があれば、上記アンケート担当まで、電話、e-mail で問い合わせをお願いします。

ご回答いただいた内容は、私どもの会のブログにて公開するほか、「小平市この4年間の公共施設再編の振り返りと今後」のQ1とQ2については、印刷して市民の皆様配布する予定です。過去の立候補予定者アンケートは以下のような形で公開しています。

客観性・公平性を大事にして公開アンケートをしています。ご覧になっていただければと思います。

これまでの公開アンケート実施例

2023 年 4 月 21 日 市議選公開アンケート

<https://x.gd/qwoKI>

2021 年 4 月 4 日 市長選公開アンケート

<https://x.gd/2l24e>

2019 年 4 月 21 日 市議選公開アンケート

<https://bit.ly/397H65e>

2017年4月9日 市長選公開アンケート

<https://bit.ly/3paDPaG>

「わたしたちのまちのつくり方」で検索→メニューから小平市選挙で見られることも出来ます。

ご回答いただけなかった場合は、その旨公開致しますので、何卒ご了承ください。

また、アンケートに顔写真を使わせていただけませんか？

立候補予定者全員が同意いただいた場合のみ使用させていただきます。

出来ればアンケートとともに顔写真電子データを添付していただきますようお願いいたします。

どうかご協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケート回答締切日：2月28日

## 市長選立候補予定者公開アンケート目次

小平市この4年間の公共施設再編の振り返りと今後 .....	5
小平市が住み続けたい自治体になるために .....	5
小平駅北口再開発への市の関与について .....	6
市内の都市計画道路の整備について .....	7
農地を含めた市内の緑を維持するための施策について .....	9
公民館の利用料の見直しについて .....	10
市南西部地域の小平中央公園グラウンド・鷹の台公園ほか Park-PFI 導入について .....	11

前文（市民向けに公開する前文です、この中には質問はありません。）

昭和 22 年から 24 年生まれの団塊の世代約 800 万人が、全員後期高齢者となり、人口に占める 65 歳以上の割合は、29.3%で過去最高、世界（人口 10 万以上の 200 の国及び地域中）でも最高となりました（※ 1）。高齢化率によって、労働人口、とくに建設業、運送業などの現場の働き手不足が如実になっていきます。

三大都市圏では東京圏のみは人口微増ですが大阪圏、名古屋圏は横ばいまたは減少の状態が進んでいます。都心の一部のエリアを除いては、多くの自治体で人口減少が始まっています。小平市は 2030 年をピークに人口減少の予測（※ 2）です。

高齢化率も上昇、出生率は低下、人口減少していく中で、地方からの人口流入にも限界になり、近隣との人口の取り合いが始まっています。

新しい市長にはどんなまちづくりが求められるのでしょうか？

公共施設マネジメントに基づき公共施設の床面積 20%減をかけた、11 小、13 小と地域センターなどの統合、小平市中央公民館、健康福祉センター、社会福祉会館の建替え集約化（中央エリア開発）、小川駅西口の再開発では、小川西町公民館、小川西口図書館、小平元気村おがわ東の一部の施設の統合がすすんでいます。

小平駅北口では、再開発準備組合が設立したものの進展はなく、見直しが進んでいます。東京都と 23 区 26 市 2 町による 10 年に一度の都市計画道路の整備方針の見直しが 2024 年 10 月からはじまっています。

小平市の貴重な農地は、2014 年の 173ha から、2023 年で 152ha まで 12%減少しており歯止めがとまりません。わたしたちのまちのつくり方では、2023 年都市農地保全に関して市議会に請願を行い全会一致で可決していますが、都市農地保全に関して大きな動きは、小平市にはありません。

私たちのまちのつくり方では、今回も市長選立候補予定者に、まちづくりについて公開アンケートを実施します。

小平市の大事な未来を選ぶための参考材料にいただければ幸いです。

※ 1）総務省の 65 歳以上の高齢者の人口推計 2024 年 9 月 15 日

<https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics142.pdf>

※ 2）令和 2 年国勢調査に基づく小平市の将来人口推計

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/53857/053857/att\\_0000001.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/53857/053857/att_0000001.pdf)

## 小平市この4年間の公共施設再編の振り返りと今後

Q1) 市民への影響が大きい小平の公共施設再編のトピックス3つにどのような評価をあたえますか？

各トピックスについて、5段階評価（1全く評価しない、2評価しない、3どちらともいえない、4評価する、5十分に評価する）で得点をつけてください。

トピックス1 中央エリア再編 (1, 2, 3, 4, 5)

トピックス2 小川駅西口再開発 (1, 2, 3, 4, 5)

トピックス3 公共施設マネージメント (1, 2, 3, 4, 5)

Q2) Q1の回答の評価の理由と、これらを含む今後の公共施設再編の進め方についてお考えを聞かせてください。

(500文字以内の自由記述)

## 小平市が住み続けたい自治体になるために

小平市の高齢化率は23.7%(令和6年2月現在)で、生産年齢人口(15歳～64歳)は、2020年～2070年までに約3万2千人減少すると推測されています。

市では、令和9年度からの20年間を計画期間とする小平市都市計画マスタープラン改訂作業がすすめられています。

改定の背景として、人口減少・少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症による社会の状況変化、農地転用による緑の減少や、工場等の移転や再編による大規模敷地の土地利用転換が生じていることがあげられています。(※1)

市が2015年に実施した「定住・移住に関する意識調査」によると、転入者がこれからも小平市に住みたい理由についての回答として最も多いものが「自然環境が良いため55.7%」、次が「生活環境が良いため(騒音等がないため)30.4%」でした。

また、前回2017年のマスタープラン改定にあたり、市内の中学生に実施したアンケートでは、小平に住み続けたいと思う理由は、「小平の自然環境が好き」が、53.3%で最も多く、「20年後に小平市はどのようなまちになっていたらよいと思うか」についても、「水や緑の豊かな自然環境が守られるまち」が46.4%でトップでした。(※2)

市は、「小平市観光まちづくり振興プラン～都会から一番近いプチ田舎～」(平成26(2014)年3月策定)に続き、「第二次小平市観光まちづくり振興プラン」(※3)を策定しました。その基本理念は、

「訪れたい 住み続けたい」の観光まちづくり」、キャッチフレーズは「ふらっと小平 東京プチ田舎」となっています。

※1)令和9年度からの20年間を計画期間とする小平市都市計画マスタープラン改定の基本方針

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/112389/112389/att\\_0000001.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/112389/112389/att_0000001.pdf)

※2)2017年改訂マスタープラン本編 参考資料編

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/54947/054947/att\\_0000008.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/54947/054947/att_0000008.pdf)

※3)第二次小平市観光まちづくり振興プラン

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/111438/111438/att\\_0000003.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/111438/111438/att_0000003.pdf)

Q3) 小平は近年、農地転用による宅地化が進んだことにより緑は減少し、また、再開発事業等で「プチ田舎」の風景は、少しずつ変化してきています。市民が住み続けたい街として高く評価する小平の自然環境は、自然保全と開発のはざままで、今後も変化していくと思われます。生産年齢世代、子育て世代の転入を促し、小平で育った子どもたちが永住したくなる自治体になるために、自然環境を保全しながらまちづくりをしていくには、どのような施策が必要でしょうか。実現したいことを具体的にお答えください。

(500文字以内の自由記述)

## 小平駅北口再開発への市の関与について

小平駅北口再開発については、2015年9月に再開発準備組合が発足、2016年には、事業協力者が決定して、準備組合事務所までも開設されました。再開発準備組合設立から、まもなく10年が経過しようとしていますが、いまだに権利者の合意形成がされない状況で、2024年7月には、再開発準備組合は、施工区域の縮小や建物形状の見直しの検討(※)を発表しています。

計画が進まないのは、駅前広場の開発には否定しないものの現状の準備組合の再開発計画には反対している地権者が再開発準備組合と対立していることが背景にあります。

都市計画として小平駅北口の市施工の都市計画道路3・4・19号線、再開発組合施工で実施する乗入道路部分と駅前広場の開発について、優先整備の都市計画があるにも関わらず、小平市が、地権者や駅利用者などの意見に十分に耳を傾けずに、都市計画マスタープランで都市計画区域の約4倍のエリアを再開発事業検討区域としてしまったことが10年の停滞を招いた原因の一つです。

Q4)小平市は、地権者や駅利用者など周辺住民の意見を聞いて、法律上・手続き上、地権者が合意形成できるように、さまざまな立場の住民が話し合う場をつくるなど、再開発見直しのためのリーダーシップを発揮しますか？

YES NO

Q5)具体的にはどのように見直しをすすめますか？

(500 文字以内の自由記述)

※小平駅北口再開発通信 第 11 号 <https://kodairakita-saikaihatsu.com/wp01/wp-content/uploads/2024/07/35ac3b1e9fde1307816a64bdbc15b3bd.pdf>

事業概要書 [https://kodairakita-saikaihatsu.com/assets/pdf/20240719-%E7%B5%84%E5%90%88%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E6%A6%82%E8%A6%81%E6%9B%B8\(%E6%8E%B2%E8%BC%89\).pdf](https://kodairakita-saikaihatsu.com/assets/pdf/20240719-%E7%B5%84%E5%90%88%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E6%A6%82%E8%A6%81%E6%9B%B8(%E6%8E%B2%E8%BC%89).pdf)

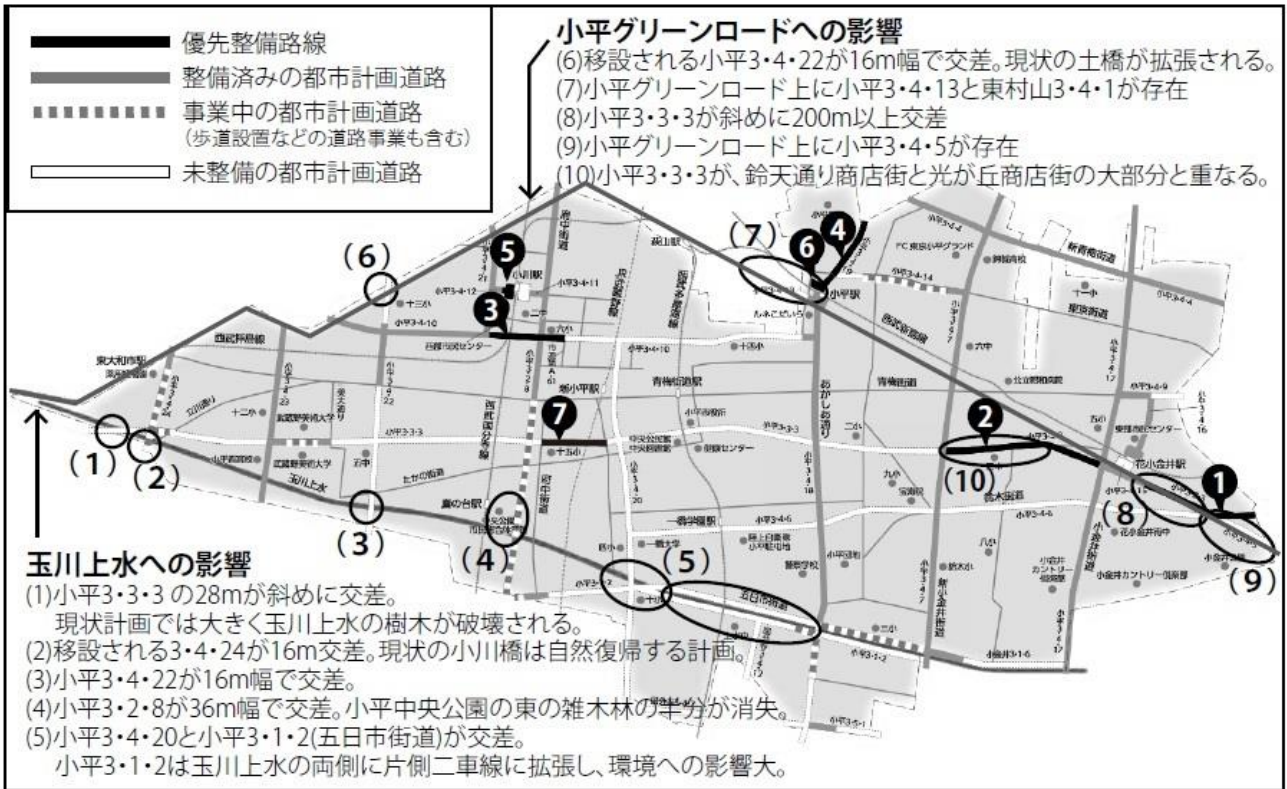
## 市内の都市計画道路の整備について

小平市の都市計画道路は、1962 年、1963 年に都市計画決定された 24 路線です。2024 年 3 月現在、整備率は約 43.1%、8 路線が開通、残り 16 路線は事業中、もしくは未着手です(※1)。

2024 年 10 月から、東京都と 23 区、26 市 2 町による都市計画道路の優先整備路線や見直しを行う「東京における都市計画道路の整備方針（仮称）」の改定の検討が始まっています。

都施工・市施工の都市計画道路の整備方針の策定では、小平市も意見を言うことが出来る当事者の 1 市という位置づけです。

これまでの市施工の都市計画道路については予定地及び沿道の 50m 程度の範囲の住民アンケートを行っているものの、選考過程が市民には見えないまま優先整備路線が決まっていました。路は他市、他県にもつながっている交通網であり、防災時も重要な役割を果たす大事なインフラであることはもちろんですが、人口減少・高齢化が著しく進む局面において、小平市のまちづくりに大きく関わる都市計画道路の整備方針について、影響を受ける狭い範囲の住民意見だけではなく市民からも幅広く意見を聞いて、見直していくべき時期と言えます。



### 小平市内の都市計画道路と優先整備路線

※市報こだいら 2016年5月5日都市計画道路特集号(\*)に、玉川上水、グリーンロードなど自然環境、商店街などの生活環境との影響が大きい部分について注記を追加した。

- ①②小平3・3・3号線、③小平3・4・10号線、④⑥小平3・4・19号線と交通広場約5,000m<sup>2</sup>、
- ⑤小平3・4・12号線と交通広場約3,200m<sup>2</sup>が2017年から、2026年までに優先的に整備される予定となった都市計画道路。
- ⑦小平3・3・3号線、第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業

Q6)小平市内の優先整備路線の選定について市民意見を取り入れるために、どのような施策を行いますか？

(500文字以内の自由記述)

Q7)小平市内の都市計画道路について、人口減少・高齢化が著しく進む中で、計画路線の廃止・縮小を含めた意見を23区、26市2町の検討の場に提案しますか？

YES NO

(その理由 500文字以内の自由記述)



## 農地を含めた市内の緑を維持するための施策について

「小平市第三次みどりの基本計画」（令和3（2021）年3月策定）では、市内の「みどり率9.6%」を維持することを目標としています。

ですが、その数字は、平成29（2017）年時点でのものであり、年々市内の「みどり」は減少しているものと思われます。

また、当会は2023年に、請願「都市農地を守るために、国への意見書の提出とできる取組の検討を求めることについて」を行い小平市議会で採択されました。

請願事項の2「小平市は、東京都の生産緑地買取・活用支援事業等を活用して農地を守る取り組みをしてください」については、市として「JA東京むさしと連携を図り、市へ農地を売却する意向のある農家の情報収集等を行っている」とのことです。

東京都は、都市の貴重な農地を保全し、農のある風景を維持していくために、「農の風景育成地区制度」（※1）を創設しており、これまでに、世田谷区、練馬区（2件）、杉並区、調布市、江戸川区、町田市、の計7件の実施例があります。

「小平市第三次みどりの基本計画」（※2）では、緑の募金の普及と活用として、「公共施設等で緑の募金を実施し、普及を図るとともに、募金を活用して市内のみどりを保全します。」とあります。市が以前行った市民アンケート調査（※3）では、「自然環境や郷土風景をできる限り維持していくための財政的な負担」について、市民の回答は、「少しなら負担してもよいと思う」が35.0%と最も多く、「どちらとも言えない」が31.2%、となっています。

**Q8)減少する農地、小平を東西に横断する玉川上水両岸に隣接する貴重な緑地、小平グリーンロード周辺の緑地などの維持、新たな緑の創出のためには、どのような施策が必要と考えますか。(500文字自由記述)**

**Q9)小平市でも東京都の「農の風景育成地区制度」を活用するために必要な計画「農の風景育成計画」を策定する考えはありますか？**

YES NO

(その理由を500文字以内の自由記述)

**Q10)緑を創出する資金として「緑化基金」や「緑の募金」を広く市民に周知し、寄付を募ることを考えていますか？**

YES NO

(その理由を 500 文字以内の自由記述)

※1)「農の風景育成地区」に指定する効果としては、散在する農地を一体の都市計画公園などとして指定することで、農業の継続が困難となった場合にも、区市町が農地を取得し農業公園として整備することができ、地区指定に際し、農業者との協力、連携が図られることで、農地の活用を通じた農業者と地域住民との交流がさらに促進され、都市農地の重要性などについての住民の理解が進み、農のある風景が育まれる、などがあります。

[https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/seisaku/midori\\_kakuho/chikuseido.html](https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/seisaku/midori_kakuho/chikuseido.html)

※2)「小平市第三次みどりの基本計画(2021年3月)」第4章みどりのまちづくりに取り組む

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/88220/088220/att\\_0000006.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/88220/088220/att_0000006.pdf)

※3)平成27年度小平市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査結果(速報)

[https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/47522/047522/att\\_0000004.pdf](https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/files/47522/047522/att_0000004.pdf)

## 公民館の利用料の見直しについて

公民館は、「社会教育法」(昭和24年制定)で、市町村の社会教育行政の一部に位置づけられ、「住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする」とされています。

公民館(※1)は公平に誰でも使うことが出来、市民の居場所として、生涯学習・交流、心身の健康維持の場として、また子育て中の女性の学習の場や、退職後の高齢者の生きがい形成等の役割も担っています。これらは健康の維持に大きく貢献し、医療費の抑制にも寄与しているといえます。小平市の公民館は数も多く、少子化対策として子育て支援にもつながる公民館保育室の存在など、他市から羨まれるほど活動は活発で小平市の誇れる事業で、小平市の強みになっています。

残念ながら小平市では公民館条例で有料(※1)の規定が設けられ、現在は減免措置が講じられています。(国立市公民館条例では無料です)。

公民館の利用料の見直しは、新型コロナウイルス感染症の影響下にあった2020年の要望書に基づき、凍結された状態が続いています。

インフレで物価が高騰して、生活にゆとりがない子育て世代、年金暮らしの高齢者などには、わずかな利用料だとしても、社会教育の場が失われることにつながります。

実際、有料化された東村山市の事例では、有料化前後の2006年から2007年の1年間で利用率が50.3%から38.5%(※2)に下がり、とくに長時間利用となる展示室利用が大幅に減りました。その3年後に公民館条例の一部改正を再度行い、「平均30%の政策的減額措置」を講じました。

Q11) 新型コロナウイルスの影響終息後、地方自治体の役割として、利用料の見直しの検討をどのようにすすめますか？そして、物価高騰の中、公民館の利用料の見直しが市民生活に与える影響についてどのように考えていますか？

(500 文字以内の自由記述)

※1) 公民館は憲法上重要な施設であり、単なる貸し会議室ではありません。新憲法公布時の通達（1947年1月20日発社第6号「新憲法発布記念公民館設置奨励について」）では、「町村民が新憲法の精神を日常生活に反映させるための恒久施設」とされ、憲法26条はすべての国民に教育を受ける権利を保障しています。憲法の趣旨から、公民館は誰でも使いやすいよう無償であるべきと考えられます。

※2) 東村山市議会 2009年3月市議会、議事資料及び議事録より。

## 市南西部地域の小平中央公園グラウンド・鷹の台公園ほか Park-PFI 導入について

小平市は、新設する鷹の台公園と、中央公園グラウンドの改修について、設計、建設、管理運営を全て民間に任せる Park-PFI 方式を進めており、昨年12月に事業者も決まりました。市が直営で行う場合は、基本設計の段階でワークショップなどによって市民の意見を募り、反映しますが、Park-PFI の場合は、設計から事業者が行い、今後、市として市民の意見を募る予定はないとしています。

市が2025年2月1日に行った公園や体育施設等の整備・改修等についての説明会では、特に中央公園グラウンドのサッカーフィールドと多目的エリアを人工芝化する方針に対して、市民からは環境保全や健康の観点から疑問視する質問や意見も出されました。

Q12) 鷹の台公園の整備と中央公園グラウンドの改修について、設計の段階から市民の声を反映させるために、どのように進めますか？

(500 文字以内の自由記述)

Q13) 特に中央公園グラウンドの野球場の部分を多目的エリアに変えて人工芝にするという Park-PFI の事業者からの提案については、決定のプロセスにも疑問の声が出ています。人工芝はマイクロ

プラスチックや PFAS(※)の排出源となり、環境中に放出されるプラスチックが生物や人体に与える影響が懸念されます。人工芝化については慎重な検討が必要ではないでしょうか？ご意見をお聞かせください。

(500 文字以内の自由記述)

※) Park-PFI とは、(公募設置管理制度) とは、公園の設計、施工、維持管理を包括して民間事業者発注する制度です。2017 年の都市公園法改正で導入され、民間の資金やノウハウを活かし、公園の魅力向上と維持管理の負担軽減を目的としています。

※) PFAS (ペルフルオロアルキルおよびポリフルオロアルキル物質) とは、有機フッ素化合物の総称です。耐熱性や耐薬品性、撥水撥油性などの特性を有し、幅広い用途で使用されています。

※) 天然芝については、メンテナンスは大変ですがボランティアで維持している 13 小での例があります。

以上、お忙しい中、ここまでお読みいただきありがとうございました。